

香川のすがた

～香川の経済・産業・暮らしの今、そしてこれから～

2022年版



大卷伸嗣 Liminal Air -core-

一般財団法人 百十四経済研究所

香川のすがた発刊にあたって

地域の皆さまには、当研究所の調査・研究事業にご理解・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。このたび、香川における地域情報発信の一環として隔年で出版しております『香川のすがた』を発刊いたしました。

本書は、四国のトピックを始め、香川の概観・経済・産業等について、地域に馴染みのない方々にもご理解いただけますよう、平易・簡潔にまとめたものです。

第1章では、香川の未来を考える上で重要なトピックとなっている人口問題、四国の新幹線、四国遍路、防災対応、SDGs を取り上げました。

人口については、首都圏一極集中により、香川の総人口は1995年の102.7万人をピークに減少の一途を辿っておりますが、コロナ禍を機に地方移住への関心の高まりもみられます。デジタル化の加速、生活様式の変化、製造拠点の国内回帰・地方分散等を背景に、若い世代やテレワーク経験者等を中心とする地方回帰の流れを四国へ誘引する施策が期待されるところです。

交通に関しては、四国の新幹線整備促進が重要なテーマになっており、当研究所でも地域の経済団体と協力して、新幹線整備の波及効果等の調査を進めてきました。その中で、ポストコロナの地方回帰の流れを確実にするためには、都市と地域とを結ぶ高速交通インフラが不可欠であることが明らかになり、全国で唯一の新幹線空白地域としての危機感を深めております。これからも、新幹線を活用したまちづくり等の情報を地域で共有し、四国の新幹線整備の機運醸成を推し進める必要があります。

交流人口の拡大に関しては、世界文化遺産登録を目指している四国遍路は、重要な地域の観光資源でもあります。世界的な旅行ガイド誌『Lonely Planet』が発表した、2022年に訪れるべき世界の旅行先ランキング「Lonely Planet's Best in Travel 2022」において、四国が地域部門第6位に選出されており、四国遍路を含む四国の観光コンテンツが世界的な評価を受けております。アフターコロナを見据えた交流人口の拡大に向けて、地域の観光資源の有効活用が課題となっています。

第2章以降では、新たに香川で暮らし始めた方々にも、香川のすがたを把握していただけるよう、「日本の中の香川」から「四国の中の香川」、そして「香川の特徴」へとズームインする流れで、香川について平易にまとめております。

香川の概観、経済、産業等を網羅しておりますので、香川の現状と未来を考える上でのヒントとして、本書をご活用いただければ幸いです。

2022年5月

一般財団法人 百十四経済研究所
理事長 平尾 幸夫

[2022年版]

香川のすがた

CONTENTS



1	人口減少・高齢化社会	02
2	四国の新幹線整備	04
3	四国遍路文化の継承	20
4	防災・災害対応	24
5	持続可能な社会の構築に向けた取り組み	29



1	基盤	34
2	県民生活	38

コラム

	香川県民のうどん消費行動	48
--	--------------	----



1	生産規模・構造	54
2	事業所	56
3	就業・雇用	58
4	物価・地価	62
5	家計	66
6	貿易	70



1	農 業	76
2	漁 業	80
3	製造業	82
4	建設業	87
5	運輸業	89
6	卸・小売業	93
7	宿泊業・飲食サービス業等	97
8	医療・介護業	103

資 料

.....	112
-------	-----
